



Title	大阪外国語大学中国文化フォーラムのセミナー： 「中華人民共和国の60年を問う：日本における中国 研究の到達点」の報告
Author(s)	許，衛東
Citation	アジア太平洋論叢. 2007, 17, p. 165-167
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100060
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪外国語大学中国文化フォーラムのセミナー

「中華人民共和国の60年を問うー日本における中国研究の到達点ー」の報告

許 衛 東*

大阪外国語大学特別研究Ⅱプロジェクト「現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境」は、地域研究の新たな視点から冷戦崩壊後の国際関係と秩序における中国の役割を再評価するために、学内の地域研究者有志によって組成されたプロジェクトである。研究期間は2005年度から2007年度までの3年間である。

プロジェクト「現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境」の全体の主旨は、中国の変貌を中心・周辺（core-periphery）関係の再編過程ととらえ、主に（1）「中国」を中華人民共和国と等値せず、「多元的多民族社会と華人社会」という空間的広がり、および「近現代の軌跡と前近代からの逆照射」という歴史的射程からその特質を捉えること、（2）東西冷戦構造の解体から新国際秩序の模索の過程において顕在化した東アジアの新しい「文明生態」の形成における中国文化の位置付けとインパクトを競争・共生・共同あるいは摩擦・対立・対決というような緊張関係を意識しつつ、様々なディシプリンを駆使して研究すること、（3）香港・台湾・東南アジアなどの華人・華僑社会の新しい文化変容・文化創造が、中国とその周辺地域との地域間関係にどのような影響を与え、また中国の国家的枠組みの再編にどのようなインパクトを与えうるかを多面的に検討すること、（4）中国の開放体制が、中国国内の周辺部とそれに深い歴史的文化的繋がりを持つ周辺諸地域との間に、どのように新たなネットワークを形成し、そして地域間関係・民族関係を再編成しつつ、なおかつこれらを主体とする経済・文化圏形成に寄与し、またかつての周辺地域を新たな核とする中心・周辺（core-periphery）

* 大阪外国語大学 アジアⅠ講座

関係をどのように生成させつつあるかなどの諸点について、特に周辺地域の歴史の変遷過程と実像から多角的に検討を加えること、(5) 日本を含めた中国の国際関係の未来像形成を巨視的・重層的にとらえていくための中国研究及び中国と関連する地域研究の可能性と方法を提起すること、などの諸点である。

上記の主旨のもとに、2006年度の活動計画を3点に集中して遂行した。すなわち、(1) ナショナリズムや宗教やエネルギーなどに代表されるグローバル・イシューの観点から「中国」及び「中国」をめぐる近現代東アジアの国際関係と歴史構造の検討を行ない、「交錯・対抗」関係から「共存・共棲・共創」関係への展望に立って、中国台頭に伴う21世紀の東アジア（東南アジアを含む）の国際環境変動のダイナミズムに対処すべき有効な処方を具体的に提案、提示すること、(2) 「中国」の内部から周辺関係を捉える視点の再検討を行なうと同時に、周辺地域、なかでも東南アジアや中央アジアの内部の視点から、周辺を主体とした地域群が「中国」の存在をどのように捉え、その歴史の変容を経て結果として「中国コンセプト」ないし「中国インパクト」がどのように醸成され、そしてそれらが「中国」に求める国際関係の認識座標としてどのように展開し、変容してきたかを検討すること、(3) 大阪大学との統合により、これまで大阪外国語大学が主体となって蓄積してきた中国地域研究領域の知的資産を継承、発展させるという観点から、研究組織の再編と研究者の再配置を経て組織される新生阪大において、持続的発展に相応しい研究体制作りのあり方を提示すること、などの3点である。

この計画の主旨に沿って、2006年11月11日（土）にワークショップ「中国」のインパクトと東アジア国際秩序」を大阪千里中央ライフサイエンスセンタービルで開催した。北海道大学スラブ研究センターをはじめ、中国大陸と台湾などから第一線で活躍する国際関係分野の研究者による精彩ある報告を得た。

さらに、2007年2月17日（土）にセミナー「中華人民共和国の60年を問うー日本における中国研究の到達点ー」（大阪外国語大学特別研究Ⅱプロジェクト「現代「中国」の社会変容と東アジアの新環境」と大阪大学グローバルヒストリー研究会科学研究費プロジェクトとの共催）を企画し、経済と外交と政治史の3分野から長年中国研究にかかわり、日本の中国研究の発展に貢献してきた研究者3名

による報告集会を行なった。当日、大阪大学の関係者をはじめ、中国研究以外の研究者も多数来場し、活発な問題提起と討論を実施した。

今後の学会活動の活性化のための問題提起及び大阪外国語大学の地域研究の成果の記録として、上記のセミナー主題報告の原文を以下に掲載する。紙面の関係上、討論部分の掲載は割愛した。

詳しくは <http://homewww.osaka-gaidai.ac.jp/~c-forum/index.htm> を参照して頂きたい。なお、セミナーの開催プログラムは以下の通りである。

セミナー：中華人民共和国の60年を問う

ー日本における中国研究の到達点ー

●日 時：2007年2月17日（土曜日）午後13：30－18：00

●場 所：千里中央、阪急千里朝日ビル14F、第5会議室

総合司会 堤 一昭（大阪外国語大学准教授）

13：30－13：40 主旨説明：許 衛東（大阪外国語大学准教授）

13：40－14：20 高原明生（東京大学教授）：

「成長か均衡かー中華人民共和国の経済政策論争と中央・地方関係ー」

14：20－14：30 ディスカッション：許 衛東

14：30－14：40 討 論

14：40－15：00 コーヒー・ブレイク

15：00－15：40 毛里和子（早稲田大学教授）：「当代中国外交研究のための覚え書」

15：40－15：50 ディスカッション：西村成雄（大阪外国語大学教授）

15：50－16：00 討 論

16：00－16：40 山田辰雄（放送大学教授）：「歴史のなかの中華人民共和国」

16：40－16：50 ディスカッション：田中 仁（大阪外国語大学教授）

16：50－17：00 討 論

17：00－17：40 自由討論

17：40－17：50 総 括：西村成雄